

MGC

2025年度
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2026年5月13日

証券コード
4182



本日の決算説明のポイント



1. 2025年度 通期業績実績

前年度比

売上高	7,382億円	▲353億円
営業利益	452億円	▲55億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲403億円	▲858億円

オランダ メタキシレンジアミン(MXDA)プラント、台湾 超純過酸化水素プラントおよび複数事業での減損損失等を計上

- 売上高
- + BT材料の販売数量増
 - ポリカーボネート(PC)・メタノール市況下落
 - オルソキシレン(OX)チェーンからの事業撤退

- 営業利益
- + BT材料の販売数量増
 - メタノール市況下落による損益悪化
 - MXDAとその誘導品の損益悪化

配当方針 年間配当 **100円** (中間50円、期末50円) * 前回予想から変更無し

2. 2026年度 通期業績予想

前年度比

売上高	8,400億円	+1,017億円
営業利益	590億円	+137億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	460億円	+863億円

中東情勢の前提:

- 原燃料価格の高騰やサプライチェーンの混乱は当面続くと想定
※2026年度 原油価格前提: 通期90ドル/bbl. (上期100ドル/bbl.、下期80ドル/bbl.)
- 上記前提のもと、現時点で織り込める要素を業績予想に反映。なお、上昇傾向にある製造コストは販売価格への転嫁を進める方針

- 売上高
- + メタノール市況上昇、原材料コスト増の販売価格転嫁
 - + 電子材料の旺盛な需要継続、用途拡大

- 営業利益
- + メタノール市況上昇
 - + 電子材料の旺盛な需要継続、用途拡大
 - 償却費、研究開発費の増加

配当方針 年間配当予定 **110円** (中間55円、期末55円)
* 普通配当ベースで年間10円の増配を予定

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 2

まず本日の決算発表のポイントについてご説明いたします。

1点目の2025年度 通期実績につきましては、BT材料の販売は好調に推移しましたが、ポリカーボネートやメタノールの市況下落、メタキシレンジアミンとその誘導品での損益悪化などにより、対前年度比で減収減益となりました。

また、特別損失として、オランダ MXDAプラントなど、複数事業において減損損失等を計上しました。詳細は後ほど説明いたします。

2点目の 2026年度 通期予想につきましては、メタノール市況上昇、原材料コスト増の販売価格への転嫁、電子材料の旺盛な需要継続などを織り込み、増収増益となる見通しです。なお、中東情勢については、原燃料価格の高騰は当面続くと想定していますが、製造コストの上昇分は、販売価格へ転嫁していく方針です。

2026年度の年間配当は、前年度比10円増配の110円を予定しております。

中東情勢の影響について

- 中東情勢悪化に伴う影響は、メタノールのサウジアラビア拠点を除き、現時点では限定的
- 原燃料価格の高騰により製造コストは上昇傾向。採算悪化を避けるため販売価格への転嫁に取り組み中
- 業績への具体的な影響については、6月の経営概況説明会や四半期決算などの場で適宜アップデートしていく

グリーン・エネルギー &ケミカル	メタノール及び誘導品	<ul style="list-style-type: none">● サウジアラビア拠点からの製品輸送に制約が生じており、他拠点品の融通等により顧客への販売を継続。但し、平時よりも調達コストは増加しており、販売価格への転嫁に取り組み中● メタノール誘導品は、生産・販売ともに特段の影響は生じていない
	キシレン分離及び誘導品 (含むMXDA系製品)	<ul style="list-style-type: none">● 原料キシレンは当面確保できる見通し● キシレン誘導品は、MXDA系製品を含め、生産・販売ともに特段の影響は生じていない
機能化学品	無機化学品/光学材料/ 電子材料	<ul style="list-style-type: none">● 当面の原料は確保出来ており、生産・販売ともに特段の影響は生じていない
	エンジニアリングプラス チェックス	<ul style="list-style-type: none">● ポリカーボネート(PC)/ポリアセタール(POM)ともに当面の原料は確保出来ており、生産・販売ともに特段の影響は生じていない● 主原料であるBPA/メタノール価格が高騰しており、販売価格への転嫁に取り組んでいる

続きまして、中東情勢の影響について説明いたします。

中東情勢悪化に伴う影響は、メタノールのサウジアラビア拠点を除き、現時点では限定的と見ております。

原燃料価格の高騰により製造コストは上昇傾向にありますが、採算悪化を避けるため、販売価格への転嫁を進めております。

業績への具体的な影響につきましては、6月の経営概況説明会や四半期決算などの場で適宜アップデートしてまいります。

2025年度第4四半期に計上した主な損失

- 台湾における超純過酸化水素 生産子会社の減損損失など、第4四半期に複数事業において損失を計上
- PCの生産能力削減は、PC事業の構造改革の一環として決定。引き続き同事業の収益性・資本効率性を向上させていく。その他損失を計上した事業に関しても、早急に採算改善を図る

拠点・事業	内容	金額	概要
台湾 超純過酸化水素 生産子会社 (MGC Pure Chemicals Taiwan, INC.)	減損損失	106億円	原料過酸化水素プラント新設に伴う固定費増加と、顧客からの認定取得の遅れにより厳しい採算が継続しており、固定資産の減損損失を計上
当社 PC事業 (当社 鹿島工場等)	減損損失	53億円	重点管理事業であるPC事業構造改革の一環として、2028年3月を目途に鹿島工場のPCプラントの生産停止を決定。これに伴い、同事業に関連する固定資産について減損損失を計上
トリニダード・トバゴ メタノール生産会社 (Caribbean Gas Chemical Limited)	減損損失 (※持分法投資損失として営業外費用にて計上)	42億円	前回2023年度にて減損損失(74億円)を計上。その後も採算改善に至らず再度の減損損失計上となった
オランダ MXDA 生産子会社 (MGC Specialty Chemicals Netherlands B.V.)	減損損失	19億円	第4四半期にて新たに取得した固定資産に対する減損損失の計上と、2025年度既計上分の為替評価見直しによるもの
	建設工事中止に伴う損失	10億円	2026年2月に建設中止を決定。プラント撤去費用等、建設工事中止に伴う損失を引当計上。2026年度以降、契約違約金の計上を想定しているが、繰延税金資産計上による税金費用の減額もあり圧縮される見込み

続いて2025年度第4四半期に計上した主な損失についてご説明いたします。

台湾における超純過酸化水素 生産子会社での減損損失など、第4四半期に複数事業において損失を計上しております。また、PCの生産能力削減は、PC事業の構造改革の一環として3月末に公表したものであり、引き続き同事業の収益性・資本効率性の改善を進めてまいります。また、その他損失を計上した事業に関しても、早急に採算改善を進めていく考えです。

詳細は表の内容をご参照ください。

1 | 2025年度 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

ここからは決算の内容について、
「2025年度 決算概要」
次に、「2026年度 業績予想」、
最後に「セグメント別 業績概要」という順でご説明いたします。

1 | 2025年度 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

まず、2025年度業績についてご説明します。

2025年度 業績サマリー



売上高: 旺盛な需要を受けてBT材料の販売数量は増加したが、PC及びメタノール市況の下落、OXチェーンからの事業撤退等により減収

営業利益: 上記市況下落に加え、MXDAとその誘導品での競争環境の激化、無機化学品での能力増強に伴う固定費増加等により減益

経常利益: 営業利益の減益に加え、トリニダード・トバゴのメタノール生産会社での減損損失の計上等、持分法損益悪化等により減益

当期純利益: 経常利益の減益に加え、オランダMXDAプラントや他事業での減損損失の計上等により純損失

単位: 億円	2024年度 実績	2025年度 実績	増 減		2025年度 前回予想*1	増減 金額
			金額	%		
売上高	7,735	7,382	▲353	▲4.6	7,300	+82
営業利益	508	452	▲55	▲10.9	470	▲17
経常利益	603	519	▲83	▲13.9	550	▲30
親会社株主に帰属する 当期純利益	455	▲403	▲858	-	▲180	▲223
EBITDA	973	928			972	
(EBITDAマージン(%))	12.6	12.6			13.3	
*1 2026年2月10日公表						
一株当たり当期純利益 (円/株)	228.93	▲207.04			▲92.43	
ROE (%)	6.9	-			-	
ROIC*2 (%)	6.4	3.2			3.9	
為替レート(JPY/USD)	153	151			150	

*2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本

※ 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 7

7ページをご覧ください。

2025年度 業績サマリーを示しております。

売上高は、旺盛な需要を受けてBT材料の販売数量は増加しましたが、PC及びメタノール市況の下落、OXチェーンからの事業撤退等により、353億円減収の7,382億円となりました。

営業利益は、MXDAとその誘導品での競争環境の激化、無機化学品での能力増強に伴う固定費増加等により、55億円減益の452億円となりました。

経常利益は、トリニダード・トバゴのメタノール生産会社での減損損失の計上等、持分法損益の悪化等により83億円減益の519億円となりました。

当期純利益は、オランダMXDAプラント建設中止や、他事業での減損損失の計上等により858億円減益の403億円の純損失となりました。

2025年度 業績のポイント

対年度 売上高▲353億円、営業利益▲55億円、経常利益▲83億円、当期純利益▲858億円

- 売上高： (－) PC・POM市況下落
(－) メタノール市況下落
(－) OXチェーンからの事業撤退
(＋) 電子材料の販売数量増加
- 営業利益： (－) メタノール市況下落による採算悪化
(－) MXDAとその誘導品での競争環境の激化
(－) 半導体向け薬液での生産能力増強に伴う固定費の増加
(－) PC・POM市況下落
(＋) BT材料やその他半導体関連製品の販売数量増加
- 経常利益： (－) 海外メタノール生産会社での減損損失の計上及びメタノール市況下落
(＋) 為替差損益の改善
- 当期純利益： (－) オランダ MXDAプラントや複数事業における固定資産に対する減損損失計上
(＋) 非事業用資産・政策保有株式の売却益

配当：年間100円(中間50円、期末50円*) (前年実績から年間5円の増配)

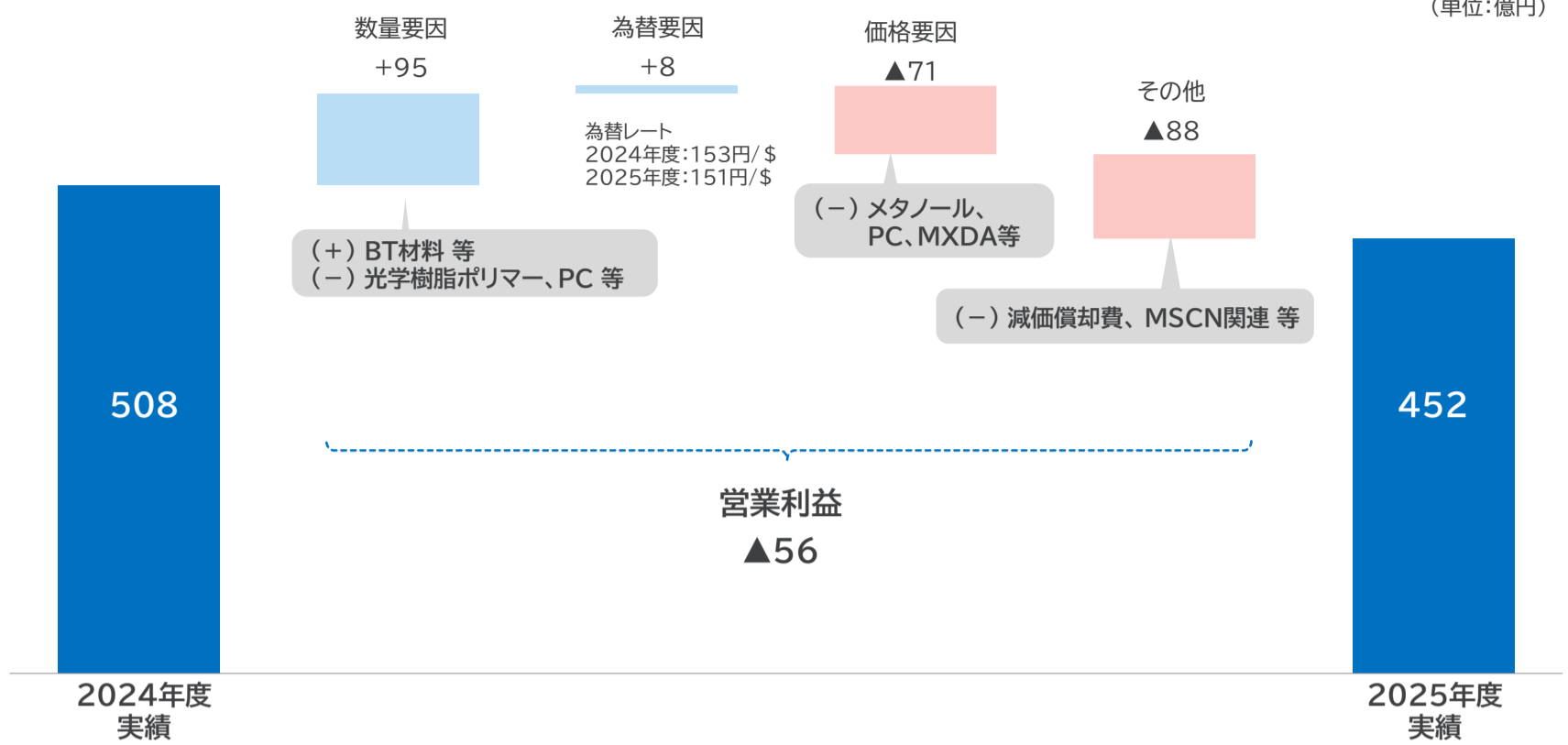
* 2026年5月26日の取締役会で正式に決定予定

8ページは、2025年度業績のポイントを、プラス要因、マイナス要因に整理してお示ししております。後ほどご参照ください。

2025年度 営業利益 増減要因(前年度比)



(単位:億円)



9ページは、営業利益の増減要因を前年度との比較で示しております。

数量要因は、BT材料の販売数量の増加、光学樹脂ポリマーの販売減少、価格要因は、メタノール、PC市況の下落の他、競争環境の激化に伴うMXDAの販売価格下落が影響しております。

その他要因には、成長投資に伴う償却費の増加の他、MXDA欧州プラント関連費用の増加などが含まれております。

2025年度 営業外損益・特別損益



単位:億円	2024年度 実績	2025年度 実績	増 減	
営業外損益	94	66	▲28	差異の内容
持分法による投資損益	109	15	▲94	● 持分法損益
金融収支	26	25	▲1	GEC ▲88 (トリニダード・トバゴ メタノールプラント減損 ▲42)
為替差損益	▲13	46	+60	機能化学品 ▲5
その他	▲28	▲21	+7	
特別利益	30	147	+116	● 特別利益 +116
固定資産売却益	-	90	+90	非事業用資産売却益(2案件) +90
投資有価証券売却益	14	49	+34	政策保有株式売却益 +34 等
その他	15	7	▲8	第2四半期決算で示した「短期集中改善策」 として実施
特別損失	▲70	▲827	▲757	差異の内容
減損損失	▲7	▲784	▲777	● 減損損失 ▲777
事業構造改善費用	▲10	▲18	▲7	オランダ MXDAプラント ▲554
建設工事中止に伴う損失	-	▲10	▲10	台湾 超純過酸化水素プラント ▲106
損害補償損失	▲23	▲6	+16	中国 過酸化水素プラント ▲53
貸倒引当金繰入額	▲2	▲5	▲3	当社 PC事業 ▲53 等
その他	▲27	▲1	+25	
特別損益合計	▲39	▲680	▲640	● 建設工事中止に伴う損失 ▲10 オランダ MXDAプラント ▲10

※ 本表の増減は対損益増減を示しております。

10ページでは、営業外損益、特別損益の内訳を示しております。
主な差異要因についてご説明いたします。

まず営業外損益につきまして、金融収支や為替差損益は改善したものの、持分法損益は、トリニダード・トバゴのメタノールプラントにおいて減損損失を計上したことや海外メタノール生産会社の損益悪化などから28億円の減益となりました。

続いて、特別利益は、第2四半期決算にてご説明した「短期集中改善策」としての取り組みとして、非事業用資産や政策保有株式の売却を行ったこと等により、合計で116億円の増益となりました。

特別損失は、先ほどご説明した海外連結子会社の減損損失の計上などにより、合計で757億円の減益となっております。なお、オランダのMXDAプラントの建設工事中止に伴う損失は、撤去費用を含めて10億円程度と、以前ご説明した内容から大幅に圧縮できております。契約解除の違約金に係る引当金もその要否を含めて交渉中であることから2025年度の計上は見送り2026年度以降の計上となる予定ですが、現時点ではオランダの子会社清算に係る税効果もあり最終利益への影響は相当程度圧縮できるものと想定しております。

1 | 2025年度 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続いて、2026年度の業績予想についてご説明します。

2026年度 業績予想



売上高:メタノール市況の回復、原材料コスト増の販売価格への転嫁、電子材料の旺盛な需要の継続等により前年度を上回る見通し

営業利益:売上高の増加に加え、前年度減損損失計上による償却費の減少等により前年度を上回る見通し

経常利益:営業利益の増加に加え、前年度に計上した減損損失の剥落等により、前年度を上回る見通し

当期純利益:経常利益の増加に加え、前年度に計上した特別損失の剥落により、前年度を上回る見通し

単位:億円	2025年度 実績	2026年度 予想	増減	
			金額	%
売上高	7,382	8,400	+1,017	+13.8
営業利益	452	590	+137	+30.3
(売上高営業利益率(%))	6.1	7.0		
経常利益	519	660	+140	+27.1
親会社株主に帰属する当期純利益	▲403	460	+863	-
EBITDA	928	1,109		
(EBITDAマージン(%))	12.6	13.2		
一株当たり当期純利益(円/株)	▲207.04	236.06		
ROE (%)	-	7.1		
ROIC (%)*	3.2	6.0		
為替レート(JPY/USD)	151	155		

* ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 12

12ページは、2026年度業績予想の概要を示しております。

2026年度は、売上高8,400億円、営業利益590億円、経常利益660億円を予想しております。

2026年度 業績予想のポイント

対年度 売上高+1,017億円、営業利益+137億円、経常利益+140億円、当期純利益+863億円

- 売上高: (+) メタノール市況上昇、原材料コスト増の販売価格への転嫁
(+) 電子材料の旺盛な需要継続、用途拡大
- 営業利益: (+) 売上高の増加、前年度減損損失計上による償却費の減少
(-) 設備の稼働開始に伴う償却費の増加、研究開発費等の増加
- 経常利益、当期純利益:
(+) 営業利益の増加、前年度計上の損失(減損損失等)の剥落、持分法損益の改善
- 配当: 2026年度の年間配当は110円を予定(普通配当ベースで10円の増配)

中東情勢の影響について

- ✓ 原燃料価格の高騰やサプライチェーンの混乱は当面続くと想定
※2026年度 原油価格前提: 通期90ドル/bbl. (上期100ドル/bbl. 下期80ドル/bbl.)
- ✓ 上記前提のもと、現時点で織り込める要素を業績予想に反映
- ✓ 製造コストは上昇傾向にあるが、採算悪化を避けるため販売価格への転嫁を進める方針

■為替前提(通期): 1ドル155円、1ユーロ180円

(為替感応度(USD、概算): 1円の円安(円高)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の増益(減益)

(EUR、概算): 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

■原油価格前提(通期): 90ドル/bbl. (原油感応度は改めて精査中) ※2025年度業績予想における原油感応度は、1ドル/bbl.の下落(上昇)で、3億円/年の増益(減益)として開示

■メタノール市況前提(通期): 375US\$/MT (メタノール感応度(概算): 1ドル/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

13ページに、2026年度業績予想のポイントを示しております。

売上高は、メタノール市況上昇や、原材料コスト増の販売価格への転嫁、電子材料の旺盛な需要継続、用途拡大等により、増収を予想しております。

営業利益は、売上高の増加に加え、前年度の減損損失計上による償却費の減少等により、増益を予想しております。

経常利益・当期純利益についても、営業利益の増加のほか、前年度に計上した減損損失などの剥落、持分法損益の改善等により増益となる見通しです。

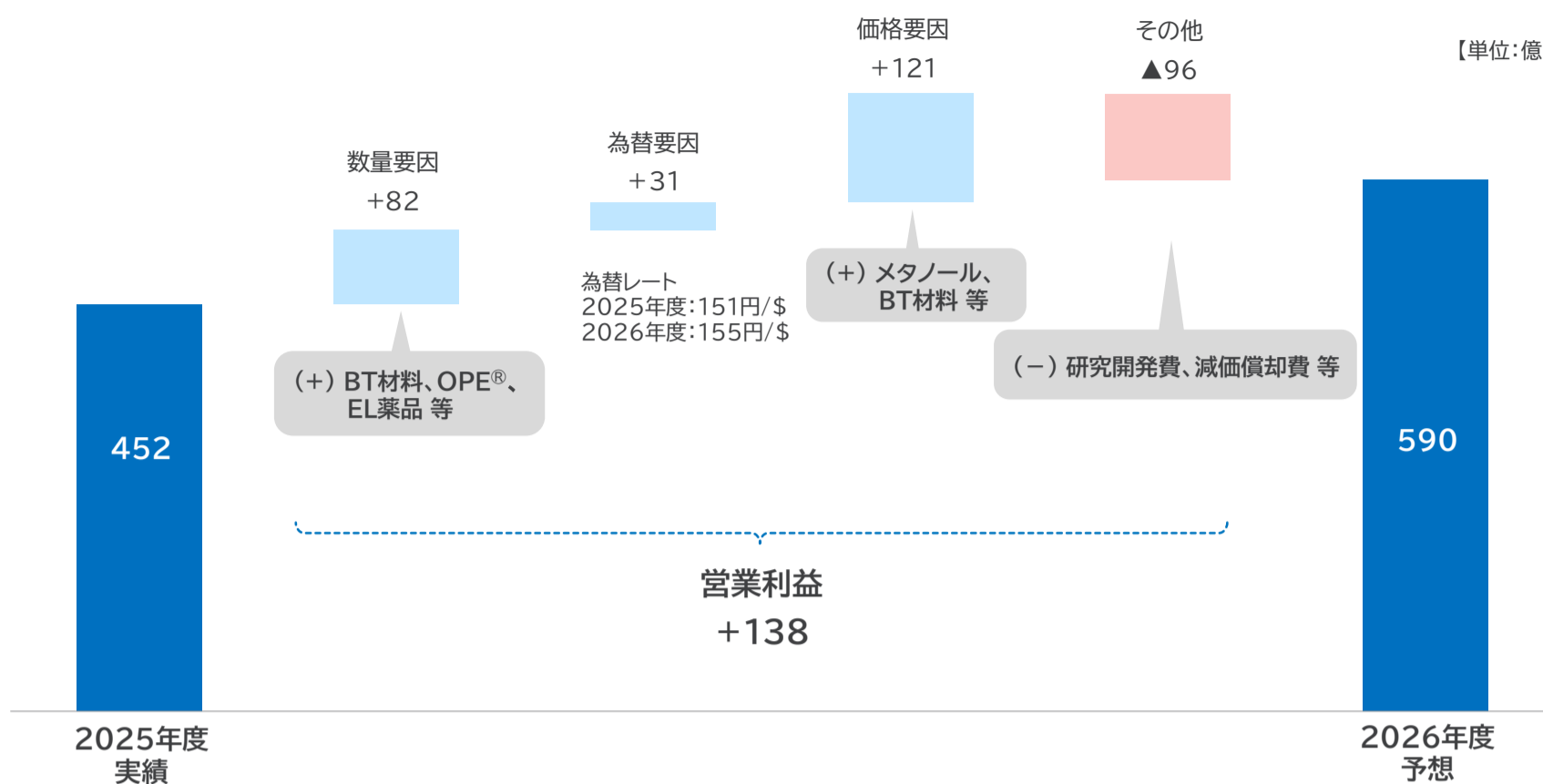
年間配当は、2026年度は前年度から10円増配の、110円を予定しております。

なお、中東情勢の影響は冒頭説明しました通り、今後の原燃料価格や原材料の調達等、不透明な部分が多い状況ですが、現時点で織り込める要素を業績予想に反映しております。製造コストの上昇については、採算悪化を避けるため販売価格への転嫁を進めてまいります。なお、原油価格やメタノール市況の前提、為替感応度については記載の通りですが、原油感応度につきましては足下の状況を踏まえ、改めて精査を進めております。

2026年度 営業利益 増減要因(前年度比)



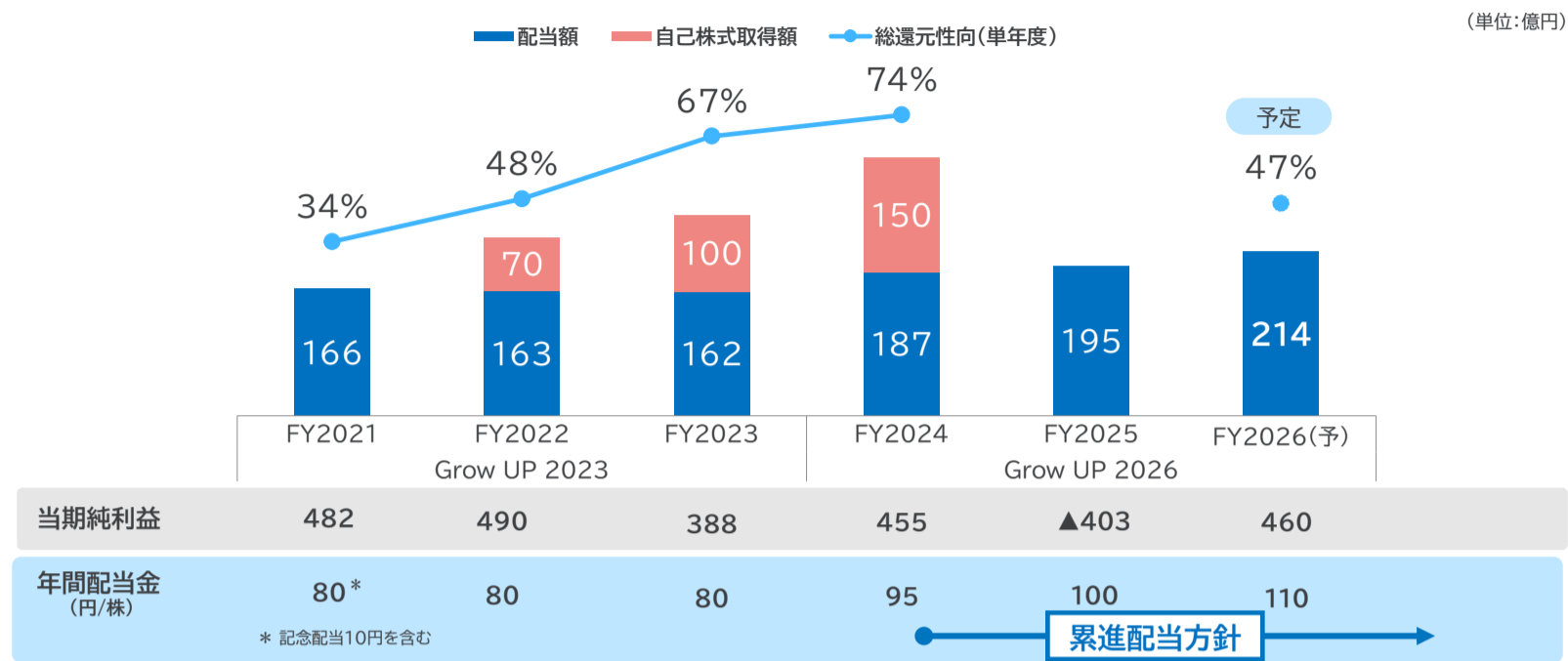
【単位:億円】



14ページは、2026年度営業利益予想の増減要因を、対前年度比で示しております。後ほど、ご参照願います。

- 現中計「Grow UP 2026」での還元方針は、**累進配当方針**、**総還元性向 50%目安**、**DOE(自己資本配当率)目標値 3%**
- 2025年度は純損失となったが、引き続き財務健全性は確保。**2025年度の年間配当は予想据え置き100円に(前年度比5円増配)**
- 中計最終年度の2026年度も、上記方針に基づき**年間10円の増配を予定**。今後も積極的に株主還元に取り組んでいく

2026年度の年間配当金は110円を予定(普通配当ベースで年間10円の増配)



15ページをご覧ください。

資本政策/株主還元について説明いたします。

2025年度の実績は純損失となりましたが、当社として一定の財務健全性は確保出来ていると考え、年間配当は予想から据え置き100円といたします。

また、現中計期間中の株主還元方針である累進配当方針などに変更は無く、2026年度の配当につきましては10円増配の年間配当110円を予定しております。

今後も積極的な株主還元を実施してまいりたいと考えております。

1 | 2025年度 決算概要

2 | 2026年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

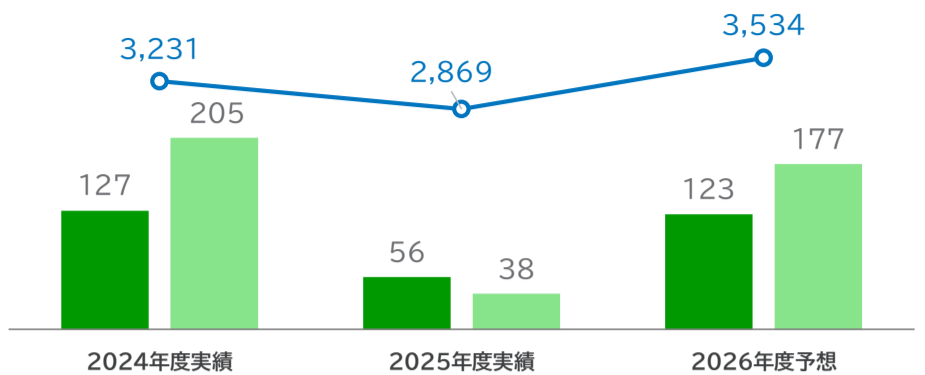
2025年度実績

売上高、営業利益: メタノール市況下落と、MXDA系製品の採算悪化等により減収減益
 経常利益: 営業利益の減益に加え、トリニダード・トバゴのメタノール生産会社での減損損失の計上や、メタノール市況下落等により持分法損益が悪化し、減益
 特別損失: オランダ MXDAプラント建設中止に伴う固定資産の減損損失等の計上

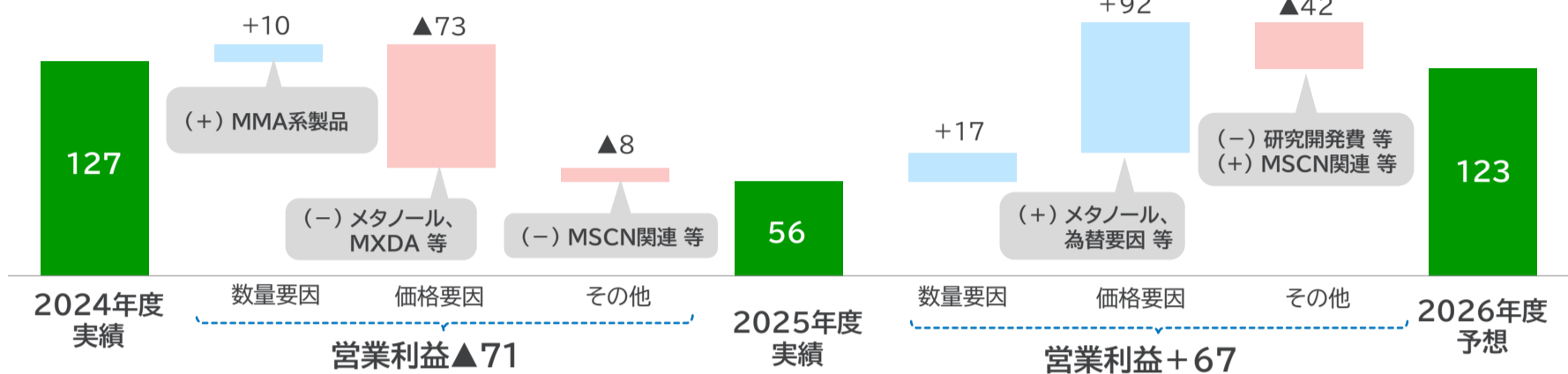
2026年度予想

売上高、営業利益: メタノール市況回復、原材料コスト増の販売価格への転嫁、MXDA系製品の販売数量増加により増収増益を見込む
 経常利益: 営業利益の改善に加え、前年度計上した減損損失等の剥落や、メタノール市況上昇による持分法損益改善で増益を見込む

■ 営業利益 ■ 経常利益 ○ 売上高



【営業利益差異要因】



17ページでは、グリーン・エネルギー&ケミカル事業についてご説明いたします。
 以降GEC(ジーイーシー)と表現させていただきます。

2025年度実績につきましては、

売上高・営業利益は、メタノール市況下落と、MXDA系製品の採算悪化等により減収減益となりました。

経常利益は、営業利益の減益に加え、海外メタノール生産会社での減損損失の計上や、メタノール市況下落等により持分法損益が悪化し、減益となりました。

また、特別損失としてオランダ MXDAプラント建設中止に伴う固定資産の減損損失などを計上しました。

2026年度予想につきましては、

売上高・営業利益は、メタノール市況の回復、原材料コスト増の販売価格への転嫁、MXDA系製品の販売数量増加により増収増益を見込んでおります。

経常利益は営業利益の改善に加え、前年度計上した減損損失の剥落や、メタノール市況上昇による持分法損益改善で増益を予想しております。

下段の滝グラフは、後ほどご参照願います。

単位:億円	2025年度 実績	2026年度 予想	増減
売上高	2,869	3,534	+ 664
天然ガス系化学品	2,135	2,700	+ 565
芳香族化学品	738	837	+ 99
調整	▲ 4	▲ 4	+ 0
営業利益	56	123	+ 66
天然ガス系化学品	57	90	+ 33
芳香族化学品	▲ 0	31	+ 32
調整	0	0	▲ 0
経常利益	38	177	+ 139
天然ガス系化学品	16	140	+ 124
芳香族化学品	22	36	+ 14
調整	0	0	▲ 0

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

		2025年度実績 (2024年度実績比)	2026年度予想 (2025年度実績比)
天然ガス系化学品	メタノール	メタノール市況の下落により減収減益 (前年度334ドル/MT →今年度317ドル/MT)	需給改善に加え、中東情勢の影響により市況は通期 375ドルを想定。市況上昇による損益改善を見込み、対前年度比で増益を予想
	メタノール・アンモニア系化学品	販売価格は下落したものの、MMA系製品の販売数量増加と固定費減少等により増益	対前年度比で固定費の増加を見込むが、MMA系製品の堅調な販売により増益を見込む
	エネルギー資源・環境	発電用LNGの販売数量減少により減収となったものの、ヨウ素の販売が堅調に推移し、営業利益はほぼ前年同期並み	発電用LNG、電力事業でのスプレッド縮小や、ヨウ素での固定費増加等により減益を見込む
芳香族化学品	MXDA*/芳香族アルデヒド/ポリマー材料 *誘導品含む	MXDAとその誘導品は、競争環境の激化による販売価格の下落、固定費の増加等により減収減益	欧州でのインフラ老朽化対応に伴うMXDA需要回復と、芳香族アルデヒドの堅調な販売を見込み、増益を予想 新プラント建設中止に伴い、オランダ拠点は体制縮小
	キシレン分離/誘導品	オルソキシレンチェーンからの事業撤退により減収となったものの、今年度は小定修年であったため修繕費が少なく、ほぼ前年同期並みの損益	PIAはスプレッド改善を見込むも、主にメタキシレンの固定費増加により減益

18ページは、GEC事業の業績動向を、主要事業別に示しております。

2025年度実績につきましては記載の内容を後ほど、ご参照願います。

2026年度予想について、

メタノールは、需給改善に加え、中東情勢の影響により市況は通期375ドルを想定。市況上昇による損益改善を見込み、対前年度比で増益を予想しております。

メタノール・アンモニア系化学品は、対前年度比で固定費の増加を見込んでおりますが、MMA系製品の堅調な販売により増益を予想しております。

エネルギー資源・環境事業は、発電用LNG、電力事業でのスプレッド縮小や、ヨウ素での固定費増加等により減益の見通しです。

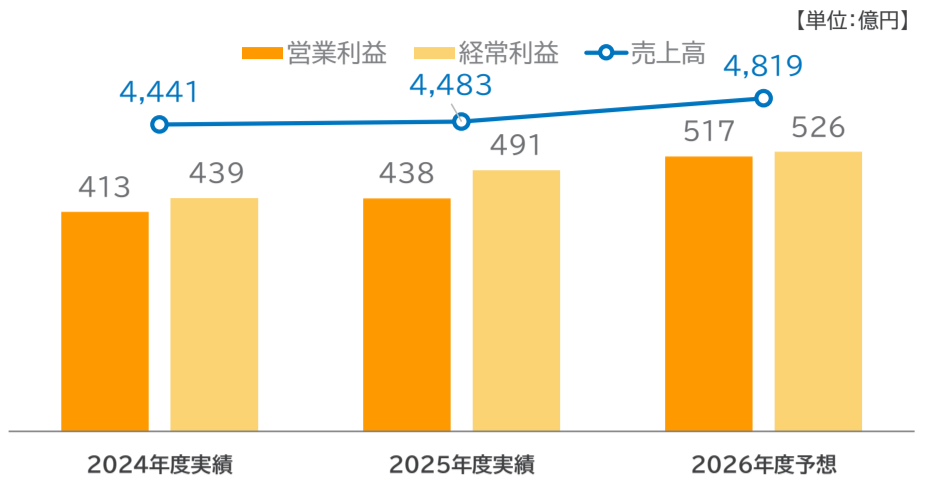
MXDAや芳香族アルデヒドは、欧州でのインフラ老朽化対応に伴うMXDA需要回復と、芳香族アルデヒドの堅調な販売を見込み、増益を予想しております。

2025年度実績

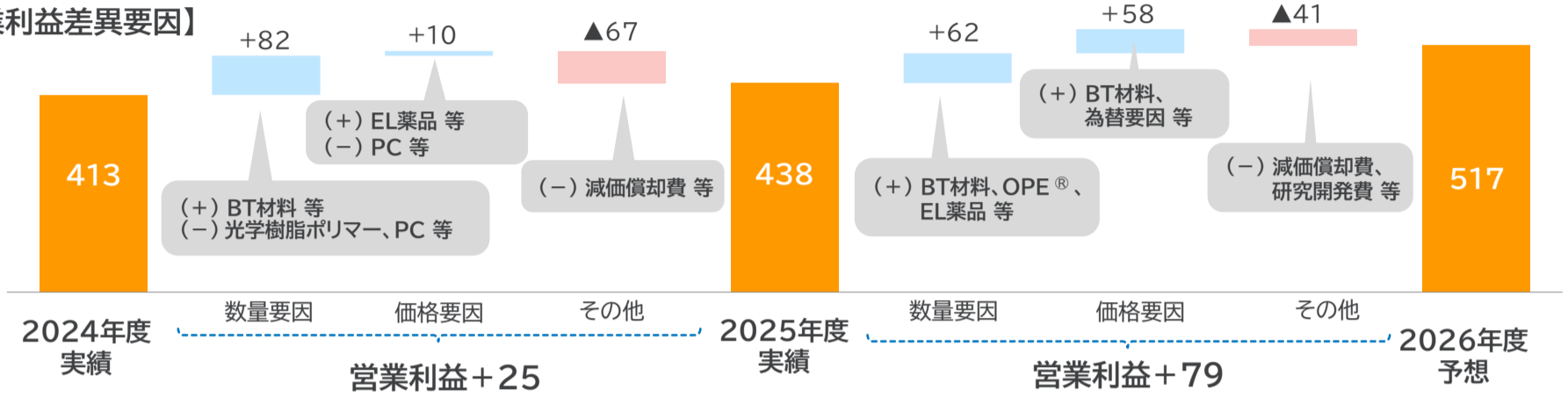
売上高、営業利益：BT材料での旺盛な需要や、先端半導体向け製品(ハイブリッドケミカル、OPE®)の好調な販売により、増収増益
 特別損失：台湾及び中国の無機化学品拠点での減損損失の計上に加え、当社鹿島工場でのPC生産停止決定に伴う減損損失を計上

2026年度予想

売上高、営業利益：無機化学品や電子材料で成長投資に伴う固定費増加を見込むが、BT材料の価格改定効果・新規採用拡大、半導体向け薬液の需要回復に加え、前年度の固定資産の減損損失計上に伴う償却費減少効果もあり、増収増益を見込む



【営業利益差異要因】



19ページでは、機能化学品事業についてご説明いたします。

2025年度実績について、

BT材料での旺盛な需要や、先端半導体向け製品であるハイブリッドケミカルやOPE®の好調な販売により、増収増益となりました。

特別損失として、台湾及び中国の無機化学品拠点での減損損失の計上に加え、当社鹿島工場でのPC生産停止決定に伴う減損損失を計上しました。

2026年度予想について、

無機化学品や電子材料で成長投資に伴う固定費増加を見込んでおりますが、半導体向け薬液の需要回復、BT材料の価格改定効果・新規採用拡大に加え、前年度の固定資産の減損損失計上に伴う償却費の減少もあり、増収増益の見通しです。

下段の滝グラフは、後ほどご参照願います。

機能化学品



単位:億円	2025年度実績	2026年度予想	増減
売上高	4,483	4,819	+ 335
機能化学品	3,508	3,707	+ 198
特殊機能材	975	1,112	+ 136
調整	▲ 0	▲ 0	▲ 0
営業利益	438	517	+ 79
機能化学品	213	255	+ 41
特殊機能材	224	262	+ 38
調整	0	0	▲ 0
経常利益	491	526	+ 35
機能化学品	241	253	+ 11
特殊機能材	249	272	+ 23
調整	0	0	▲ 0

		2025年度実績 (2024年度実績比)	2026年度予想 (2025年度実績比)
機能化学品	無機化学品	半導体向け薬液の販売数量増加により増収となったが、台湾拠点における生産能力増強に伴う固定費の増加等により減益	顧客の稼働上昇により半導体向け薬液の需要は回復傾向を見込む他、前年度減損損失計上による償却費減少等により増益
	エンジニアリングプラスチック	PC、POMともに市況下落・販売数量減少により海外拠点の採算が悪化し、減収減益	PC: シートフィルム生産拠点集約化による固定費減少や、前年度減損損失計上による償却費減少等により増益 POM: 販売価格下落・原料価格上昇により減益
	光学材料	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマートフォン向けの販売数量減少、償却費等の固定費増により減収減益	光学樹脂ポリマー・レンズモノマーは堅調な推移を見込むものの、レンズモノマーの新設備の稼働に伴う償却費増等により減益となる見通し
特殊機能材	電子材料	半導体パッケージ用BT材料において品質対応強化に伴うコスト増加はあったものの、幅広い分野での需要拡大に加え、一部原材料の供給懸念から顧客側で在庫確保の動きが生じた。AIサーバー向け基板材料OPE®の販売数量増加も寄与し、増収増益	BT材料の需要は引き続き好調に推移する見込み。価格改定効果の発現や新規用途の採用拡大を見込み増収増益。OPE®もAIサーバー市場の堅調な推移に加え、用途拡大により成長が続く見通し
	生活衛生ソリューションズ	脱酸素剤における輸出数量の減少や、原材料価格の上昇等により、減益	脱酸素剤は、海外向け販売数量増加を見込み、増益を見込む

※ 内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 20

20ページに、機能化学品事業の業績動向を、主要事業別に示しております。

2025年度実績については記載の内容を後ほど、ご参照願います。

2026年度予想について、

無機化学品は、顧客の稼働上昇により半導体向け薬液の需要は回復傾向を見込む他、前年度の減損損失計上に伴う償却費減少等により増益を予想しております。

エンジニアリングプラスチックは、PCはシートフィルム生産拠点集約による固定費減少や、前年度の減損損失計上に伴う償却費減少等により増益、POMは販売価格下落・原料価格上昇により減益を、それぞれ予想しております。

光学材料は、光学樹脂ポリマー・レンズモノマーは堅調な推移を見込むものの、レンズモノマーの新設備の稼働に伴う償却費増等により減益となる見通しです。

電子材料は、BT材料の需要は引き続き好調に推移すると見込んでおり、価格改定効果の発現や新規用途での採用拡大を見込み、増収増益を予想しております。OPE®もAIサーバー市場の堅調な推移に加え、用途拡大により成長が続く見通しです。

決算についての説明は以上となります。

2026年度は、当社の中期経営計画の最終年度に当たります。中計の進捗状況につきましては、6月5日開催予定の経営概況説明会にて詳細をご説明させていただく予定です。

Appendix

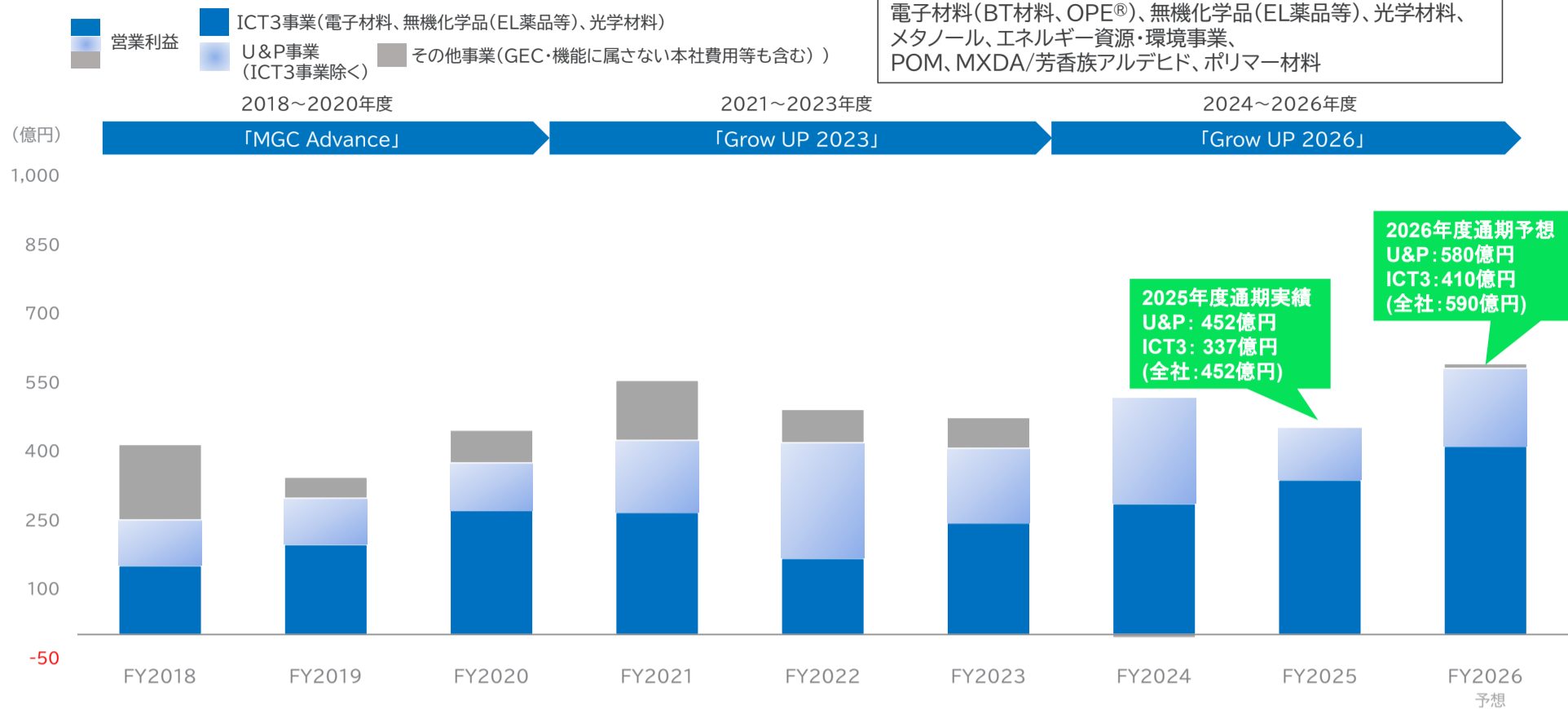
ICT3事業・U&P事業(Uniqueness & Presence)の営業利益推移



成長ドライバーであるICT3事業を中心に、現中計期間に再拡大

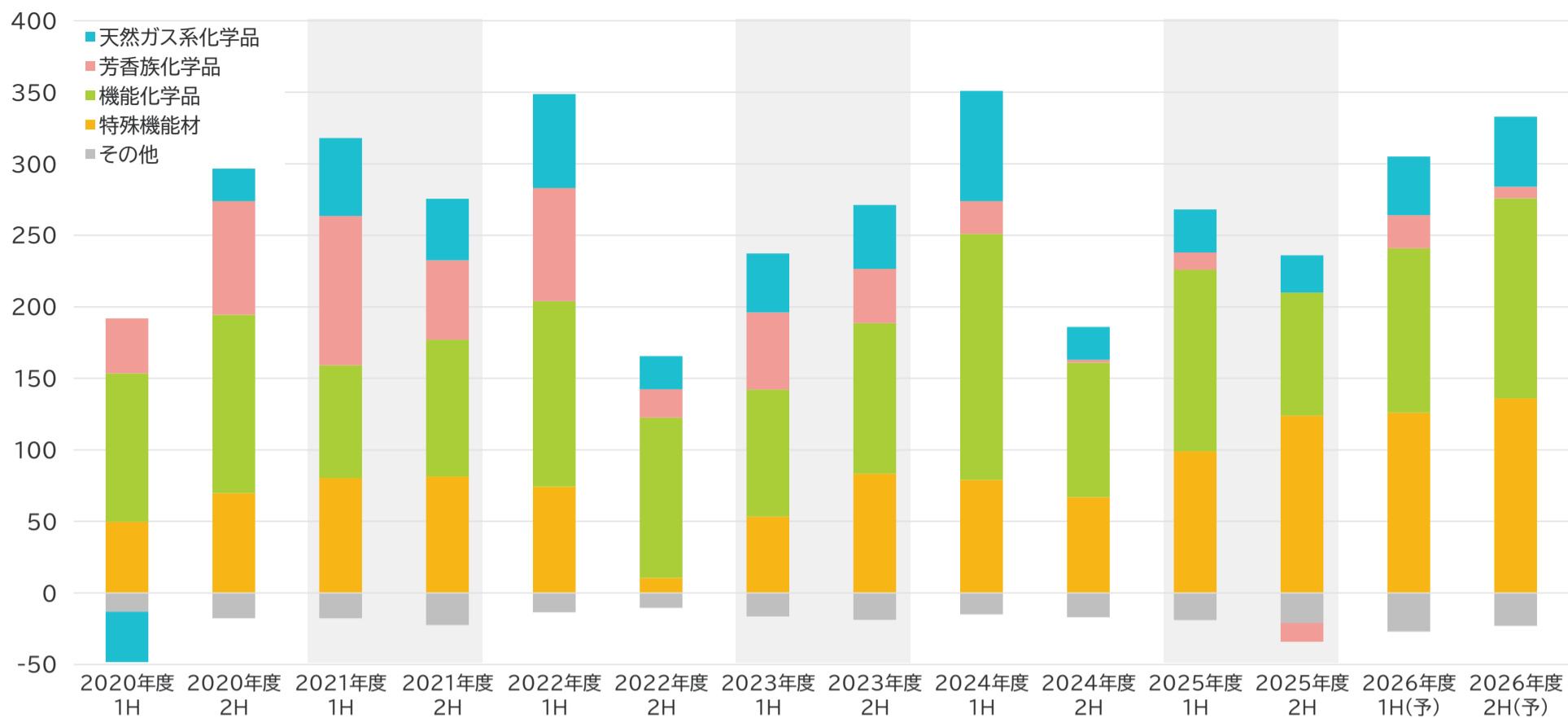
U&P事業:中計「GrowUP2026」において経営資源を優先的に配分すべきと評価した以下の事業

電子材料(BT材料、OPE®)、無機化学品(EL薬品等)、光学材料、メタノール、エネルギー資源・環境事業、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



主要製品群別 営業利益推移

(億円)



※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度(実績)			2025年度(実績)			2026年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,881	3,854	7,735	3,616	3,765	7,382	4,200	4,200	8,400
GEC	1,639	1,592	3,231	1,411	1,458	2,869	1,789	1,745	3,534
機能化学品	2,229	2,212	4,441	2,199	2,284	4,483	2,382	2,436	4,819
全社/調整	12	49	62	6	23	29	28	18	46
営業利益	337	170	508	251	201	452	280	310	590
GEC	101	26	127	43	12	56	65	57	123
機能化学品	252	161	413	227	210	438	241	276	517
全社/調整	▲15	▲16	▲32	▲19	▲22	▲41	▲27	▲23	▲51
経常利益	374	228	603	314	204	519	310	350	660
GEC	142	62	205	62	▲23	38	80	97	177
機能化学品	258	180	439	260	230	491	249	276	526
全社/調整	▲27	▲13	▲41	▲7	▲2	▲10	▲19	▲23	▲43

セグメント別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度(実績)				2025年度(実績)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837	1,877	1,887
GEC	783	855	804	787	682	728	755	702
機能化学品	1,092	1,136	1,134	1,078	1,089	1,110	1,120	1,163
全社/調整	4	8	10	38	8	▲1	2	21
営業利益	157	180	115	55	109	141	126	74
GEC	41	60	28	▲2	19	23	29	▲16
機能化学品	126	126	99	62	96	130	105	104
全社/調整	▲9	▲6	▲12	▲4	▲6	▲12	▲8	▲13
経常利益	179	194	164	64	138	176	166	37
GEC	45	97	41	21	39	23	31	▲55
機能化学品	139	119	126	54	99	160	126	104
全社/調整	▲5	▲22	▲2	▲10	▲0	▲7	9	▲11

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2024年度(実績)			2025年度(実績)			2026年度(予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,881	3,854	7,735	3,616	3,765	7,382	4,200	4,200	8,400
天然ガス系化学品	1,195	1,134	2,329	1,045	1,089	2,135	1,383	1,317	2,700
芳香族化学品	449	463	912	368	370	738	407	429	837
機能化学品	1,866	1,840	3,706	1,740	1,768	3,508	1,846	1,861	3,707
特殊機能材	362	372	735	459	516	975	536	575	1,112
全社/調整	7	43	51	3	20	24	28	18	46
営業利益	337	170	508	251	201	452	280	310	590
天然ガス系化学品	77	23	100	30	26	57	41	49	90
芳香族化学品	23	2	26	12	▲13	▲0	23	8	31
機能化学品	172	94	266	127	86	213	115	140	255
特殊機能材	79	67	146	99	124	224	126	136	262
全社/調整	▲15	▲17	▲32	▲19	▲21	▲41	▲27	▲23	▲50
経常利益	374	228	603	314	204	519	310	350	660
天然ガス系化学品	110	44	155	40	▲23	16	50	90	140
芳香族化学品	32	17	49	22	▲0	22	29	7	36
機能化学品	168	110	279	147	93	241	118	135	253
特殊機能材	89	70	159	112	136	249	131	141	272
全社/調整	▲26	▲14	▲41	▲7	▲2	▲10	▲19	▲23	▲43

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

主要製品群別 2024年度及び2025年度 四半期別推移



単位:億円	2024年度(実績)				2025年度(実績)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,881	2,000	1,950	1,904	1,779	1,837	1,877	1,887
天然ガス系化学品	565	629	552	582	498	546	567	522
芳香族化学品	220	228	254	209	185	183	188	182
機能化学品	910	956	949	890	869	870	860	907
特殊機能材	182	179	184	187	219	239	260	255
全社/調整	1	5	9	34	6	▲3	0	19
営業利益	157	180	115	55	109	141	126	74
天然ガス系化学品	27	49	▲0	24	12	18	22	3
芳香族化学品	13	10	29	▲27	6	5	6	▲19
機能化学品	84	88	66	28	51	76	41	44
特殊機能材	41	38	33	33	44	54	63	60
全社/調整	▲9	▲6	▲13	▲4	▲6	▲12	▲8	▲13
経常利益	179	194	164	64	138	176	166	37
天然ガス系化学品	26	83	▲5	50	30	10	13	▲37
芳香族化学品	17	14	46	▲29	8	13	17	▲18
機能化学品	90	78	89	20	47	100	48	45
特殊機能材	49	40	36	33	52	60	77	59
全社/調整	▲4	▲22	▲3	▲10	▲0	▲7	9	▲11

※ 便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

2025年度 貸借対照表



単位:億円	2025年3月末	2026年3月末	増 減
流動資産	4,602	4,504	▲ 97
現預金	682	689	+ 7
売掛債権	1,578	1,495	▲ 82
棚卸資産	2,075	2,069	▲ 5
その他	266	249	▲ 16
固定資産	6,594	6,625	+ 31
有形固定資産	3,665	3,343	▲ 322
無形固定資産	249	235	▲ 14
投資その他の資産	2,678	3,046	+ 367
資産合計	11,196	11,130	▲ 66

単位:億円	2025年3月末	2026年3月末	増 減
負債	4,223	4,334	+ 111
買掛債務	1,030	919	▲ 111
有利子負債	2,139	2,292	+ 152
その他	1,052	1,122	+ 69
純資産	6,973	6,795	▲ 178
株主資本	6,007	5,412	▲ 595
その他包括利益累計額	674	1,051	+ 377
非支配株主持分	291	331	+ 39
負債・純資産合計	11,196	11,130	▲ 66

自己資本比率 **58.1%** (2026年3月末時点)

2025年度 キャッシュフロー計算書



単位:億円	2024年度	2025年度	増 減
営業キャッシュフロー	754	747	▲7
投資キャッシュフロー	▲909	▲613	+296
フリーキャッシュフロー(差引)	▲155	134	+289
財務キャッシュフロー	47	▲143	▲190
現金及び現金同等物に係る換算差額等	18	30	+12
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲90	21	+111
現金及び現金同等物の期首残高	653	569	▲84
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	0	▲6
現金及び現金同等物の期末残高	569	590	+21

各種指標 (1)



単位:億円	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 (予)
設備投資額 [上期]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	547 [220]	646 [312]	817 [380]	887 [397]	719 [415]	610 [260]
減価償却費 [上期]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	319 [158]	335 [161]	363 [183]	346 [168]	382 [185]	410 [190]
研究開発費 [上期]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	210 [101]	235 [111]	256 [126]	261 [127]	266 [124]	310 [165]
年度末人員(人)	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	7,918	8,146	8,319	8,496
EBITDA* ¹	1,088	976	616	817	1,070	1,050	849	973	928	1,109
U&P事業 営業利益	314	250	297	374	423	418	406	515	452	580
ROE(自己資本当期利益率)(%)	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	6.1	6.9	-	7.1
ROIC(投下資本利益率)* ² (%)	12.1	9.5	3.6	6.2	7.4	6.4	3.3	6.4	3.2	6.0
売上高営業利益率(%)	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8	6.6	6.1	7.0
一株当たり当期純利益 (円/株)	281.39	257.46	100.50	173.41	232.15	239.08	190.97	228.93	▲207.04	236.06
一株当たり配当金(円/株) [うち中間配当]	59.00 [24.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	70.00 [35.00]	80.00* ³ [45.00* ³]	80.00 [40.00]	80.00 [40.00]	95.00 [45.00]	100.00 [50.00]	110.00 [55.00]
総還元性向 (%)	32.5	27.2	111.4	40.4	34.5	47.9	67.5	74.1	-	46.6

*1 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息 *2 ROIC=(営業利益-法人税等+持分法損益)/投下資本 *3 記念配当10円を含む

各種指標（2）セグメント別 設備投資額・減価償却費(連結)



単位:億円	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
設備投資額*	天然ガス系化学品	90	60	57	72	GEC	197	192	320	370	349	246
	芳香族化学品	105	113	146	150							
	機能化学品	81	110	144	146	機能化学品	186	326	286	419	500	425
	特殊機能材	66	19	23	26							
	その他	5	6	21	27	その他	18	29	39	27	37	47
	合計	350	309	392	423	合計	402	547	646	817	887	719
減価償却費	天然ガス系化学品	50	51	55	63	GEC	164	171	179	173	137	132
	芳香族化学品	85	85	87	95							
	機能化学品	86	91	87	87	機能化学品	130	130	137	168	185	225
	特殊機能材	30	35	36	38							
	その他	3	5	8	10	その他	11	17	18	20	24	25
	合計	256	270	274	295	合計	306	319	335	363	346	382

* 固定資産計上ベース

各種指標 (3)



	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度 予想
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
為替(JPY/USD)	134	137	141	148	153	152	146	156	155
為替(JPY/EUR)	139	143	153	160	166	162	168	182	180
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	102	83	82	82	82	75	69	75	90
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	375	351	297	324	333	335	309	324	375
原料キシレン(US\$/MT)	1,105	925	960	910	885	750	695	770	950
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,250 ~1,350	1,250 ~1,350	1,200 ~1,350	1,100 ~1,250	1,050 ~1,700	1,250 ~1,700
ポリカーボネート (US\$/MT)*	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900	1,750 ~1,900	1,600 ~1,800	1,500 ~1,650	1,500 ~2,350	1,800 ~2,450

* 期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益4億円/年の減益(増益)

為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) : 中東情勢緊迫を受け、改めて精査中 (※2025年度業績予想における感応度は、\$1/bbl.の上昇(下落)で、3億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益長期推移



単位:億円		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026(予)
全社	売上高	6,489	6,133	5,957	7,056	7,812	8,134	7,735	7,382	8,400
	営業利益	413	342	445	553	490	473	508	452	590
	経常利益	691	311	502	741	697	460	603	519	660
天然ガス系 化学品	売上高	1,883	1,637	1,582	2,262	2,471	2,155	2,329	2,135	2,700
	営業利益	33	1	9	97	88	85	100	57	90
	経常利益	226	▲57	26	140	201	0	155	16	140
芳香族化学品	売上高	2,117	2,011	1,834	2,028	2,357	2,006	912	738	837
	営業利益	146	111	117	160	98	91	26	▲0	31
	経常利益	139	104	116	160	103	101	49	22	36
機能化学品	売上高	2,057	2,020	2,074	2,141	2,489	3,452	3,706	3,508	3,707
	営業利益	212	199	228	174	241	194	266	213	255
	経常利益	282	223	255	276	281	234	279	241	253
特殊機能材	売上高	519	548	623	715	602	640	735	975	1,112
	営業利益	39	56	119	161	84	136	146	224	262
	経常利益	44	58	119	178	106	151	159	249	272

世界で戦える独自性のある製品(U&P事業)



- 「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業(差異化事業)を「Uniqueness & Presence事業」と定義
- Uniqueness & Presence(U&P)事業は当社全体の利益成長を牽引
- とりわけ、半導体関連製品(BT材料、超純過酸化水素)やスマホカメラ向けレンズ材料(光学樹脂ポリマー)といったICT3事業が成長ドライバー

Uniqueness & Presence事業

成長ドライバー
ICT3事業
(半導体・スマホ向け)



BT材料(半導体パッケージ基板材料)
世界シェア 1位



超純過酸化水素(半導体洗浄液)
世界シェア 1位



光学樹脂ポリマー
世界シェア 1位*1



ポリアセタール(POM)
世界シェア 3位



メタノール
生産能力 世界3位*2



メタキシレンジアミン(MXDA)
世界シェア 1位



MXナイロン
世界シェア 1位



芳香族アルデヒド
世界シェア 1位

報告セグメント	主要製品群	主要製品
グリーン・エネルギー &ケミカル	天然ガス系 化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族 化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・MXDA、芳香族アルデヒド、ポリマー材料(MXナイロン等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸 (PIA)等)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(EL薬品(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチックス(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折率レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料、OPE[®]等) ・生活衛生ソリューションズ製品(脱酸素剤:エージレス[®]、環境衛生薬品:ダイヤパワー等)

- アナリスト・機関投資家向け 経営概況説明会
2026年6月5日(金) 16:00-17:00
- 2026年度第1四半期 決算発表
2026年8月7日(金) 15:30
- 2026年度第1四半期 アナリスト・機関投資家向け 決算説明会
2026年8月7日(金) 時間未定

※上記予定は都合により、予告なく変更となる可能性があります。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

